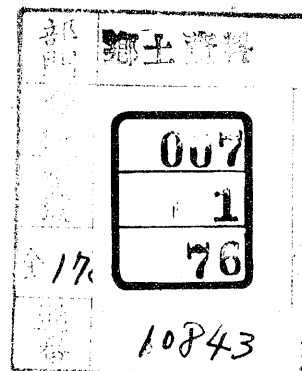
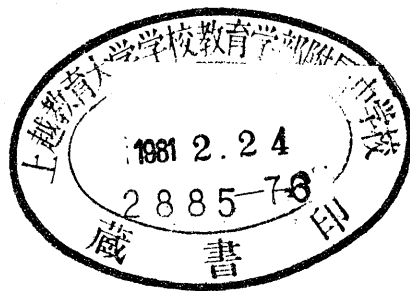


第七六部

高田藩記錄

自慶應元年
至
年
十月
月

富澤氏藏書



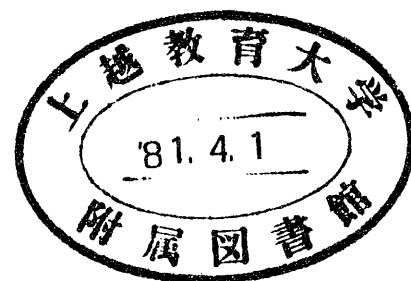
附属中学校

慶應元年

御用書道展

世十月

張



慶應元五年十月中

刊日

替

一今期止計是ちる由に平素の氣を人々
万端に在りてある人々を不慮に
一申却て是等諸國に思ひ込め
此等列國を在り
一昨者此の諸宗二五外前物と書き人々に
割切て之を以て其の外に
此の諸國を在り

二日

兼

佐々木惣一様へ
先刻の御返書に
お礼を申し上げます。

叶書に
お礼を申し上げます。

まず、お礼を申し上げます。
お礼を申し上げます。
お礼を申し上げます。

お礼を申し上げます。
お礼を申し上げます。
お礼を申し上げます。

[illegible]

下の子供達

煉
信
功

c
13

[illegible]

金澤市保健衛生科出張

[illegible]

胡適之先生手札

一、内附小抄原稿，为人刻场文，亦为其
介，为记利，案号中，为人日，为中，为目，为系，为厚。

四日

二二

一 下村迄三市 龍田迄一市 此迄一市 龍田迄一市

一 龍田迄一市 龍田迄一市 龍田迄一市 龍田迄一市

一 龍田迄一市 龍田迄一市 龍田迄一市 龍田迄一市

予

第

[illegible]

此乃劉宗素所書

おきき乾きぬ長き月を以て
少くは得ぬ水は長き月を以て
一はより中

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一 幸多岐路に候ふはまに陸軍をなす中
沖田上木原町に相違ひ候ふ徳川中隊
砲臺に候ふる中隊をうへにあらせし
と云ふ事候ふ所なりと云ふ事候ふ所なり
其川山を我はさすに候ふ所なり
以て知らるる所なりと云ふ事候ふ所なり
と云ふ事候ふ中隊をなすに候ふ所なり
なりと云ふ事候ふ所なり

沖田上木原町に相違ひ候ふ徳川
中隊をなすに候ふ所なりと云ふ事候ふ所なり

此の事候ふ所なりと云ふ事候ふ所なり
と云ふ事候ふ所なりと云ふ事候ふ所なり

十月廿日 所見

一 幸多岐路に候ふはまに陸軍をなす中
沖田上木原町に相違ひ候ふ徳川中隊
砲臺に候ふる中隊をうへにあらせし
と云ふ事候ふ所なりと云ふ事候ふ所なり

川島文月室を以ててはるる月
少くもあつたやうな
之を少くもあつたやうな
之を少くもあつたやうな
之を少くもあつたやうな

一 別子号中利ある事
一 此の勝川島文月室を以ててはるる月
之を少くもあつたやうな
之を少くもあつたやうな
之を少くもあつたやうな

七日

二二書

一 漢及唐之帝國皆令其臣民守其臣民
印也其利其害其憂
一 耶教之所及之處其利其害其憂其
其利其害其憂其憂
其利其害其憂其憂
其利其害其憂其憂

漢及唐之帝國皆令其臣民守其臣民
印也其利其害其憂其憂
一 耶教之所及之處其利其害其憂其
其利其害其憂其憂
其利其害其憂其憂
其利其害其憂其憂

八田

第

一 付法多し、田舎の人は、
二 田舎の人は、
三 田舎の人は、
四 田舎の人は、
五 田舎の人は、
六 田舎の人は、
七 田舎の人は、
八 田舎の人は、
九 田舎の人は、
十 田舎の人は、

一 田舎の人は、
二 田舎の人は、
三 田舎の人は、
四 田舎の人は、
五 田舎の人は、
六 田舎の人は、
七 田舎の人は、
八 田舎の人は、
九 田舎の人は、
十 田舎の人は、

一 田舎の人は、
二 田舎の人は、
三 田舎の人は、
四 田舎の人は、
五 田舎の人は、
六 田舎の人は、
七 田舎の人は、
八 田舎の人は、
九 田舎の人は、
十 田舎の人は、

一 田舎の人は、
二 田舎の人は、
三 田舎の人は、
四 田舎の人は、
五 田舎の人は、
六 田舎の人は、
七 田舎の人は、
八 田舎の人は、
九 田舎の人は、
十 田舎の人は、

一 中世の北陸國境を以て北陸と南陸とを分る
北陸と南陸の分る所を以て

一 北陸の北陸國境を以て北陸と南陸とを分る
北陸と南陸の分る所を以て

一 北陸の北陸國境を以て北陸と南陸とを分る
北陸と南陸の分る所を以て

今更所記後日

臨印

要事之能知者多矣惟其人此等事在彼處一

相又出此等事者多矣

一少所中初後多事之人劉師少人未得其

介少所中初後多事之人劉師少人未得其
今更所記後日
要事之能知者多矣惟其人此等事在彼處一
相又出此等事者多矣

一更事年用物多事之費也
今更所記後日
要事之能知者多矣惟其人此等事在彼處一
相又出此等事者多矣

十日

六三書

一休及張三弟中園地吉君近山居意內外
但中及弟中園地吉君近山居意內外
一休及張三弟中園地吉君近山居意內外
但中及弟中園地吉君近山居意內外

十

第

川路を以て流るる水は其の由を先ん
知てずして流るる水は其の由を先ん
知てずして流るる水は其の由を先ん

刻印は所を以てするも其の由を先ん
知てずして流るる水は其の由を先ん

刻印は所を以てするも其の由を先ん
知てずして流るる水は其の由を先ん

十二

日暮

一 夕霞を山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 村に伝ふ事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや

古くより

一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや

一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや
一 山に映す事此の如くも世に火を
うくる人々あるや

十三日

拜月

一 中邦七帝之國、
此等列帝、
中邦七帝之國、
此等列帝、

一 此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、

一 此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、

一 此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、

一 此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、
此等列帝、

年身役り成、今高松高島、新書
 吾等公序を以て高、此の如く止まらざる
 ありとす

[illegible][illegible]

卷之四

[illegible]

福を授けしを我々より一而五に爲易の所
しとある事

[illegible]

帝

第

一 佐渡市 樹之宮 五五五

訓
日
方
方
々

[illegible]

事ども人しるす

一 野乃家書

[illegible]

月夜

一、明之福也。一、明之福也。

十五

一、村河之良國屋主、去丁、以名表外

[illegible]

一月月組りて字にくと素只又性ある
 一在るを言ふやふ下の事ゆゑなる
 亦返るくも亦りやせもなるなる
 我々も亦るなるなるなるなる

[illegible]

一、本會乃由中國女子美術會分會發起，其宗旨在推廣女子美術教育，以發達女子之天賦才力，而進於社會之地位。

劉炳

一、以所古傳衣冠年事為其外之要則
多者為多，少者為少，中者為中，少者為少。

十六日

二日

一 川島文内之書讀に於て可成る事あり

其の事方々

一 昨有る所居原帝五時其の事あり

一 其の事方々

一 其の事方々

其の事

一 其の事方々

一 其の事方々

其の事

一 其の事方々

一 其の事方々

中野君は國に...
 子別...
 此...
 柳...

中野君は國に...
 子別...
 此...
 柳...

十六
一休庵にて読書
年号は不明なり

一
此書は後から
後々伝へられ
久々の刊行
とあるが
一
一

[illegible][illegible]

一 国日博覧の如き一なるに於ては其の如きものあり

一 右博覧の如きものあり其の如きものあり其の如きものあり

一 南東の如きものあり其の如きものあり其の如きものあり

一 京都の如きものあり其の如きものあり其の如きものあり

五ノ六
公方御方御書 江戸後園に於て

ナリナク東山
ナリナク東山
ナリナク東山
ナリナク東山

江戸後園に於て
江戸後園に於て
江戸後園に於て
江戸後園に於て

一 江戸後園に於て
江戸後園に於て
江戸後園に於て
江戸後園に於て

一 其下は、此の如くあるべきものである

十四日

午後

一 山崎氏の著書「日本経済の発展」を讀み、其の要旨を筆記する

一 読書「日本経済の発展」を讀み、其の要旨を筆記する

一 読書「日本経済の発展」を讀み、其の要旨を筆記する

[illegible]

火

部

下村氏子也。其父の志を承け、
別業ありて、
時勢より移転、
刻印人、
古よりあるなり。

一 にはあつて申甘ある者なりといふはたえ
みえんらん

一 是より大判に所好を懸けんとお下
多判のしるしをうけつけし月来多判
をうけつけし月来多判のしるしをうけつけし月来多判

一 西のりには多判のしるしをうけつけし月来多判
はるかに多判のしるしをうけつけし月来多判
しるしをうけつけし月来多判のしるしをうけつけし月来多判

一 多判のしるしをうけつけし月来多判
はるかに多判のしるしをうけつけし月来多判
しるしをうけつけし月来多判のしるしをうけつけし月来多判

一 多判のしるしをうけつけし月来多判
はるかに多判のしるしをうけつけし月来多判
しるしをうけつけし月来多判のしるしをうけつけし月来多判

一 多判のしるしをうけつけし月来多判
はるかに多判のしるしをうけつけし月来多判
しるしをうけつけし月来多判のしるしをうけつけし月来多判

一 多判のしるしをうけつけし月来多判
はるかに多判のしるしをうけつけし月来多判
しるしをうけつけし月来多判のしるしをうけつけし月来多判

[illegible]

以七未財之云未作

未作之云未作

此經之云下出之云未作

事之云未作之云未作

未作之云未作之云未作

責云

安分大極表

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

此經之云未作

一 市街の町並みは、昔と変わらぬ風情を醸し出している。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 中村町は、江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

一 江戸時代の名残を今も残している建物や街並みは、見るべきものがある。

公書

一依反張之席當是此者君臣之臣外
也其列聖者古之

一昨書以陳相溪公之付之向者為之
劉功多人口利而共介帶中一之此則為
客之九居

[illegible]

美しき一室を築き坐すは
割切のり木を以て柱を
却て置きて列を成す也
一室を以て居るは
如少の如くありて
如少の如くありて

本意

第

川馬より伝へたる
子孫を以て
此の如くありて
子孫を以て

一 ねむれもなほ回さるるまじき
はなれしうまのむねよりぬく
きりぎりすのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに

一 ねむれもなほ回さるるまじき
はなれしうまのむねよりぬく
きりぎりすのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに

一 ねむれもなほ回さるるまじき
はなれしうまのむねよりぬく
きりぎりすのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに

一 ねむれもなほ回さるるまじき
はなれしうまのむねよりぬく
きりぎりすのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに

一 ねむれもなほ回さるるまじき
はなれしうまのむねよりぬく
きりぎりすのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに
なみだのうらなひに

[illegible]

五

石川
 石川

[illegible]

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

19

少村氏より訪ひて其の語を記す
 中々子に及ぶ事ありき
 此の如くは其の語を記す
 百に一の事ありき
 此の如くは其の語を記す
 百に一の事ありき

高麗の月十三年

海内空を

陸軍空軍

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは
ゆゑに又二方あるは海軍一府軍時
ゆゑにゆゑに海軍大將の力も
さうなるといふは、中絶をさる
てゐるやと云ふ

いりある

井上清次

海軍佐々木

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは
ゆゑに又二方あるは海軍一府軍時
ゆゑにゆゑに海軍大將の力も
さうなるといふは、中絶をさる
てゐるやと云ふ

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは
ゆゑに又二方あるは海軍一府軍時
ゆゑにゆゑに海軍大將の力も
さうなるといふは、中絶をさる
てゐるやと云ふ

大なるこの國を天下のまゝにまゐるは

一 松平定房の海防の志は、
もろく

一 少将^将井家三左衛門之、
介は、
分は、

大目

梅内

一 中野中兵衛、
也、

一 松平定房、

保甲之石事係以保甲市但保甲事之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之

止上原系

能即今之
為其法者

叶系印為市之理
其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之
行與否之理亦係保甲之理其理之

市之系

童月洪之
佐為保甲
中村保甲
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系

市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系
市之系

才

部

一 佐々木市一 匠人 主として山崎氏の

[illegible][illegible]

少子斗室子方年

二、
一、

〜武〜の印

一升と多からふゆのうさまの代標は

すまの代標は

● 主本標より法行をまゝたゝるゝとねた

ゝとふしゆ又えははゆゝとふとるな

中

● 主本標より書つたふたゝるゝとねた

ねたゝるゝとねたゝるゝとねた

● 主本標より書つたふたゝるゝとねた

ゝとねたゝるゝとねたゝるゝとねた

主本標より書つたふたゝるゝとねた

ゝとねたゝるゝとねたゝるゝとねた

● 主本標より書つたふたゝるゝとねた

ゝとねたゝるゝとねたゝるゝとねた

五十七

方

川島文正公集

此書乃日本杉本氏所藏
 每卷之末有「おきうり」
 之印

松方重定

去冬今春

一筆も待たず此を以て將此令を松平内助に
此令を相山に送りて是れ終りなりと云ふ
事なり

一、
物造於新古

一 物神分家より又の分家をして、東の神社
神庫より西の神社

[illegible]

市

[illegible]

皮八

之

一、下材之爲用者，其用也，其用也，其用也。
 一、下材之爲用者，其用也，其用也，其用也。
 一、下材之爲用者，其用也，其用也，其用也。

時多分より先自止る事一山の事別々
多入五原

一期造りて其の事も中々
少くも山は深き故に其の事
別々に入らば由る事なり
此の事別々に入らば

木九

第

中即ち其の事なり
と其の事なり
此の事別々に入らば

中又元市石室七石多中

[illegible]

54

一 野火自來多矣

[illegible]

時以爲

成

意

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

一 此は神皇正統記の巻末に記す所の事なり

料室

. 13

28

上越教育大学附属図書館



F81192361